

開 催 要 項

- 名 称： 第11回広島県要約筆記関係者研究大会東広島大会
 テー マ： 書いてコミュニケーションを！！
 趣 旨： 聴覚障害者、特に中途失聴・難聴者が抱える問題を共に学び、障害に対する理解を深める。聴覚障害者のコミュニケーション手段である要約筆記について、研究と普及を図る。
 開催日時： 2007（平成19）年7月1日（日）
 10：00～16：00（受付9：30～）
 会 場： 東広島市総合福祉センター
 主 催： 広島県要約筆記サークル連絡会
 広島県難聴者・中途失聴者団体連合会
 広島市中途失聴・難聴者協会
 主 管： 東広島市要約筆記サークル「花たば」
 後 援： 東広島市
 参加対象： 一般県民と県内の要約筆記関係者及び難聴者・中途失聴者

タイムスケジュール

9：30 ～	受 付 （1階 ロビー）
10：00 ～ 10：20	開 会 式 （3階 集団指導室）
10：30 ～ 12：00	基調講演 （3階 集団指導室） 料亭久里川 支配人 森 浩 昭 さん 「誰も損をしない福祉の構造」
12：00 ～ 13：00	昼 食・休 憩
13：00 ～ 15：00	○ 第1分科会 （2階 運動指導室・健康指導室） 広島国際大学国際交流センター 杉 本 巧 さん 「日本語の特徴」 ○ 第2分科会 （2階 言語訓練室・作業訓練室） 特定非営利活動法人全国要約筆記問題研究会 中国ブロック長 上野 栄吉 さん 「要約筆記のこれから」 ○ 第3分科会 （3階 集団指導室） 「健康的にコミュニケーション」 （ヨガとレクレーション） NPO 法人国際ヨガ協会トレーナー 上野 真理 さん
15：00 ～ 15：30	お楽しみ企画
15：30 ～ 16：00	全体会 まとめ 引継式・閉会式

開会式

司会／皆様、おはようございます。

本日は、広島県 要約筆記サークル連絡会、
広島県 難聴者・中途失聴者 団体連合会、
広島市 中途失聴・難聴者協会 主催、東広島市 要約筆記サークル「花たば」主管による
第 11 回広島県要約筆記関係者研究大会東広島大会にご出席頂き、ありがとうございます。
私は、本日の司会を務めさせていただきます東広島市要約筆記サークル「花たば」副会長の井上と申します。どうぞよろしく願います。

—拍手—

開会前に、皆様にお願ひがございます。
講演中は携帯電話の電源を切るか、マナーモードにして頂きますよう重ねてお願い致します。
また、本日の資料がお手元にない方は、ございませんか？
予備も準備しておりますのでお持ちでない方は、受付までお越しください。
それではまず、広島県要約筆記サークル連絡会熊谷会長より、開会の挨拶を申し上げます。尚、本日の前ロールは、現在平成 19 年度要約筆記奉仕員養成講座を受講中の受講生が書いたものを使用させていただきます。
熊谷会長、よろしく願ひ致します。

熊谷／挨拶

—拍手—

司会／ありがとうございました。続きまして、広島県難聴者・中途失聴者連絡会上田会長よろしく願ひします。

上田／挨拶

—拍手—

司会／ありがとうございました。続きまして、広島市中途失聴・難聴者協会大林会長にご挨拶を頂く予定でしたが、

大林会長は、本日、広島市身体障害者福祉大会と重なり、ご出席いただけないため、私、井上が代読させていただきます。

(代読：井上)

—拍手—

司会／次に、実行委員長の内山より、ひと言歓迎のご挨拶をさせていただきます。

内山／本日参加の皆様、東広島へようこそお越しくださいました。

私たちは、福山大会から引継ぎ、1年かけていろいろと準備をしてみました。

大会テーマも、そのひとつで、要約筆記の書くということコミュニケーションを保障していることから「書いてコミュニケーションを!!」としました。

また、本日の基調講演をお願いしました、広島市の料亭「久里川」の支配人 森浩昭さんは、障害者の作業所支援として「僕らのアトリエ」を始められた方です。

広い意味での「障害者の自立」や「障害者と社会をつなぐ活動」など要約筆記と重なるところがあると思います。

そのあたりのお話が聞かれるものと楽しみにしています。大会は、花たばの会員個々の知恵や持ち味を生かした内容になっています。

今日、参加の方たちが何か今後の活動のヒントを見つけられ、また、たくさんの方との交流が図られることを願っています。

最後になりましたが、開催までいろいろとご指導、ご協力頂いた多くの方に感謝を申し上げて歓迎の言葉とします。

—拍手—

司会／ありがとうございました。以上で開会行事を終了いたします。続いて、基調講演に入りますが、準備のため今しばらくお待ちください。

—拍手—

準備が整い次第始めさせていただきます。

その時、内山さんからの「今回の大会のお弁当をお願いしたいんですが…」という殺し文句で、「やらせていただきます!」と快諾しました。

その時、内山さんと話すと、すごくパワフルで、すごく力強い方だと思いました。

こういう人が日本の福祉、ボランティアを支えておられるんだと実感しました。

今日も、女性が多いので、心強いと感じました。

私も 15 年、障害者作業所に携わっていて、「ボランティアですね」と言われますが、自分自身は、あまりボランティアとってなくて、自分では「趣味」と思っています。

15 年続けられた理由は、自分の好きな事だからだと思うのです。作業所と付き合うのが大好きだから、15 年続いたと思います。

みなさんも要約筆記は、好きだからではないのでしょうか。もう一つは、耳の不自由な方にお役に立っている、ということが大事なことです。

基調講演

演題：「誰も損をしない福祉の構造」

講師：料亭久里川支配人森浩昭さん

森／皆さん、おはようございます。

料亭久里川の森です。

今日はよろしく願ひします。本日は県要連大会にお招きありがとうございます。スタッフ・関係者の皆様にお祝い申し上げます。

こちらへ来させていただききっかけは、午前中にお電話を頂いて、担当者と話しました。

その日のお昼に、この会の世話をされている内山様から電話がかかり、

「もう広島駅なんです。」と言うことで、驚き、その日の午後には、来店され、話をしました。

要約筆記について、私は知識がなく、どうしようかな、と迷っていました。

私自身も作業所に対して役に立っているだろうか。自分の中でのライフワークの基準は、好きな事を続け、なおかつ、他人の役に立つということが基準です。こういう活動は素晴らしいので、皆さんも続けて欲しいと思います。

それでは、早速、本題に入ります。

きょうのタイトルは「誰も損をしない福祉の構造」です。料理屋がなぜ、福祉を話すかと思われるかも知れませんが、お話の中でおいおいにわかっていくでしょう。

20年ぐらい前、バブルの頃、企業にも余裕があって、お金の寄付とか、人の派遣をされていましたが、景気が回復したとはいってもまだ大変な時期です。

我々企業と作業所は、「お互い様、ギブアンドテイク」です。

福祉とは、「やってあげる側」と「受ける側」では、1回はお情けで付き合ってくれるかも知れないが、2~3回は続かない。

長続きする、循環するためには、どうすればよいのか。これから1時間半、みなさんと一緒に考えていこうと思います。

先程入り口で事前に渡した私の名刺を取り出してみてください。「環境」ということでよく見かけるのはケナフや再生紙が多いが、私の名刺はちょっと違います。障害者作業所で作られた名刺です。定価が税別1500円です。福祉でこの名刺を使っているのではなく、経費節減のために使っています。

企業に福祉の事を話す時、「もっと福祉をやる」とか、「社会貢献してください」と言っても、「うちの会社はそんなことは・・・」とよく断られますが、「経費節減しませんか?」と聞くと断わる企業は、少ないのです。

企業と話すときは、利益といっしょに話さないと理解されないのです。

ここで、NHKで2回特集を組んでもらったことがある民間の福祉支援のビデオをご紹介します。そのあと、また話を続けます。

このビデオの中の人形もみなさんにまわしますので、是非見てください。

【ビデオ上映】

一歓声と拍手一

アナウンサー／男子バレーボールチーム「JTサンダーズ」に声援を送るのは、障害者の作業所のメンバー。

自立と社会参加をめざし、職業訓練を行っています。今回、選手そっくりのマスコット人形の製作を任せられました。チームと作業所の橋渡しをしたのは近くの料亭の支配人。

森／“中小企業ができる福祉”を考える中で、このような製品の販売を思いついたんです。

アナウンサー／地域の中小企業が商売で培った知恵を活かし、障害者を支援する動きが出ています。今日の特集は作業所と企業の連携から、新しい福祉のあり方を考えます。

♪

アナウンサー／取材した、上西記者とお伝えします。この障害者の作業所は、障害のある人が自立や社会参加を目的に職業訓練などを行っているところですね。県内では、どのくらい数がありますか?

記者／はい、広島県全体で64施設、広島市内で14作業所があり、工業製品の下請けをしたり、お菓子や工芸品を作っています。

アナウンサー／作業所運営には資金が必要だと思いますが、どのように成り立っているのでしょうか。

記者／作業所の収入は主に3つです。

- ① 行政からの補助金
- ② 民間からの寄付
- ③ 製品販売の収益

このうち、補助金は、行政の財政難で減る傾向です。また、不況のため、民間企業からの寄付も厳しい状況です。そして、収益も注文の減少、製品価格の下落で、減っています。販路を持っていないために商品を作ってもバザーなどでしか販売できない作業所が多く、障害者一人当たり、1ヶ月の収入が1万円に届かないケースもあります。アナウンサー／3つとも減っていると、自分たちで収益を上げるしかないですね。

記者／そうですね。厳しい中で、商売のノウハウにたけた、地域の中小企業が、お金ではなく、日頃培った、知恵を活かして、作業所の運営をサポートして収益をあげようという動きが出てきました。広島市内で取材をしました。

一歓声と拍手一

ナレーション／今月24日広島市内の共同作業所を「JTサンダーズ」の主力選手が訪れました。それぞれの選手にそっくりの人形が選手に贈られました。

選手／実際より、数倍もハンサムに作ってあります。選手／一つずつ手作りで温かみが伝わります。嬉しいです。ナレーション／このマスコットを作っているのは、精神障害者の共同作業所「パンダハウス」の22人のメンバーが、デザイン、木材カット、着色まで、すべてをこなしています。

押し花や絵葉書を作っていた頃は、企業からの注文はほとんどありませんでした。主力製品を木工品に切り替えた今は、数ヶ月先まで注文が入っています。

パンダハウス所長／内職の下請けと違い、作っていく過程に喜びがあります。

ナレーション／「パンダハウス」と「JTサンダーズ」を仲介したのは、老舗の料亭の支配人「森浩昭」さんです。パンダハウスと同じ町内で働き、自分の仕事を活かし、協力できることはと考えたのが、料理で出る大量のかまぼこ板。これを木工品の材料に譲ることにしました。廃棄物を材料にするので作業所は材料費を、料亭ではゴミ処理費用を節約できます。

森／大企業は、お金の寄付や人の派遣ができるが、中小企業では、お金も人も余裕がない。しかし、時代にあった形で、できる福祉は何かを考え、製品販売を思いついたんです。

ナレーション／広い人脈の森さんの協力は、販路の拡大につながりました。

森さんの紹介先の一つ、広島市内のホテルです。ロビーのお土産売り場に可愛い人形。原爆の子の像のモデル「佐々木禎子さん」をイメージしたメモスタンド。パンダハウスの製品です。

平和公園に近く観光客が多い立地に合ったデザインを勧めました。

ホテル関係者／お客様に手に取り、買って頂かないとビジネスにならないので作業所さんにも厳しいことを言いお互いで作っています。

ナレーション／JTサンダーズのファン感謝デーに新製品がお披露目されました。選手のマスコット人形がファンにプレゼントされました。

記者／それ、どなたですか?

ファン／徳元選手です。

記者／選べるんですか?

ファン／はい、
記者／なぜこれに？
ファン／大好きだから。
ファン／尾上選手です。手作りと聞いて、一つずつ違うなあと感動しました。
ナレーション／大成功を収めました。
J Tでは今後の商品化も検討しています。パンダハウスは、順調な売り上げを続けています。

「作業所と企業の連携」新しい福祉の形を作った、森さん。連携の輪を広げるために自分のような仲介役の育成が重要と考えています。

森／私も一人でやっていますが、コーディネーターをたくさん養成して、市内、県内の企業に入っていただき、営業の話の中で福祉の話、作業所の話をしていくと作業所にも良い仕事の情報が入ってくるのではないのでしょうか。

アナウンサー／企業としてお金の寄付でなくかまぼこ板の提供やネットワークでの広がりを提供する。といった、地域の企業ならではのやり方での支援ですね。

記者／コストの削減、販路の拡大は、長年の課題でしたが、行政も商売の専門知識を持ってないので手をこまねいていました。

行政は次の3点に対策が必要だとしています。

①作業所同士の連携：一つの作業所では、手が足りず企業の注文を断ることもあるが、共同で受注納入できれば効率も上がり、注文も増える。どの地域にどの作業所があるかを把握している行政がリードできます。

②収益率をあげる。：食品は賞味期限があり、管理に気を使うが、木工品のように契約相手によって製品を変えたり、材料費を抑えてコストを省く工夫が必要です。

③技術力の向上：一般企業から講師を招いたりして、作業所に専門技術習得を目指す必要があります。

アナウンサー／①は、行政でできます。②③は、民間の協力が必要ですね。

記者／そうですね。これからは、行政と民間が不足した部分を補い合って、障害者がより、自立に近づくための新たな策を考えてほしいと感じました。

アナウンサー／今日の特集は上西記者と共に、お伝えしました。

【ビデオ終り】

森／今のようなお話でした。ひとつひとつ説明しますと、元に戻り、障害者作業所とは？

簡単に説明します。障害のある人が作業所でいろんな製品をつくりたり作業をしたりしています。実際には、就労が問題です。厳しいです。作業所でも定員待ちの状態の作業所もあります。作業所という名称が、変わって、就労支援などの一般就労を支援する活動があります。作業所はあと何年か後には、NPOとか、法人にしないと生き残れない状況。きょうは、作業所で説明します。

「僕らのアトリエ」は、ビデオにもありましたが、一般企業の店頭で、作業所の製品を販売しています。93年、日本で初めてということが始まりました。県内では、生協でも販売しています。手数料が少しかかりますが…。

ウチでは、全額作業所に還元しています。

これがうちの店の中のアトリエ。

一番上が、これが廃油石鹸。

こちらが木工人形。材料がかまぼこ板だとわかりますね。

これは洗剤を使わないたわし。

こういうものを店頭で販売しています。

こういう活動がなぜ誕生したのか？

ビデオでもありましたが、私は、広島の工業大学を卒業後、5年間就職して、広島の実家に帰りました。技術屋で営業をしたことはありませんでした。おじいさんに相談したら、「商売は、人に尽くせばうまくいくよ」とアドバイスしてくれました。そうは言っても、今とおじいさんの時代は違うので、どうしたらいいかと考えました。

私にできることは、「環境」とか「福祉」かなと。環境は、ゴミを減らす。

大企業なら寄付も人材提供もできるが、中小企業の福祉？出来ないです。

そんなのはできない！と半年投げっていました。半年位して、新聞を見ていたら、広島市内の作業所の製品カタログができたと言う記事がありました。それを見たとき、寄付は出来ないが、物売ることはやれるのではないかと、思いました。もしかしたら、福祉に役立てるのではと思いました。何かできるのでは？と直感しました。

広島市中区の社会福祉協議会に行き、今朝新聞でみたものを売ってみたいと申し出ました。「障害者作業所に行ったことがあるの？」と聞かれました。テレビなどでは見たことはありますが、福祉のことは知らないで、「一度、作業所を見学されては？」と提案されました。もみじ作業所が吉島にあります、広島でも古い作業所です。ウチに近かったんで、見学させていただきました。作業所では、ある男性が「さおり織り」をしていました。昔話で出てくるはたおり機を障害者が使えるようにしたものです。男性が一生懸命織っていました。彼は、何も見ないで配色していました。非常によい絵柄で織っていました。突然、彼が編むのをやめました。

どうしたのかと思って見ていたら、全部ほどこき始め、また、最初から編んでいきます。所長さんに「なぜ？ほとんどできていたのに…」と聞くと所長は、「気に入らない所があったのでしょうか」ということでした。私たちの仕事でも「ま、いいか」と思うことはあります。この男性の製品への思い入れは、健常者より強いのかもしねないと感じました。ユーザーにわかってもらえる。それを売って見たいと話して、市内を回り、実際、現場を見る中で僕らのアトリエが始まりました。我々販売人から見て、いろんな問題点が見えました。大きく分けて3つあります。

・資金不足。新製品を作っても売れるアテがない。実際につくる予算も取れない、目測がとれないから。バザーで売っても売れ残り回収が出来ない。

・アイデアと技術不足。よくあるのは、バザーなどで販売するとき、前のバザーで作業所が同じ製品を売っていたりする。

一舞台の上のスクリーンをご覧くださいー

だから、下請け作業ということになります。

障害者がつくるのは時間がかかることも欠点。

・ネットワーク不足。これが一番の問題点だと思うのですが、「誰に相談すればいいのか」、世間とのつながりがない。企業も作業所でないをやっているのか知らない。意思の疎通がとれていないことがあります。よく、作業所で職員と話しますが、「企業のいい製品」と「作業所のいい製品」は同じかどうか。たとえば、企業のいい製品というのは、品質の安定、包装がいい、とか安全性が高いとか。作業所のいい製品というのは、企業のいい製品とはちょっと違うと思います。

これは可部の作業所の廃油石鹸です。ウチの店でも販売しています。ひとつずつ、貼り絵がしてあります。いろんな絵柄があります。

実際の作業を見に行きました。職員の様子を見ると、障害者の子が貼り絵をしている、途中まで貼り絵したものを横

の職員が何かしている。「何をされているのですか」と聞くと、「よくわかんない絵だから手直ししているんです」と言った。

私は「なんでそうするのですか」とききました。「いらんことを！」

うちでこれ売りの販売される状況を見たことがありますか？と職員に聞いたら「ない」と。つまり、訳の分らないものから先に売れます。

一生懸命に作ったという様子が、製品を通してお客に見えるから売れる。よくがんばったと。

余談ですが、あるセミナーを聞いてきました。

ある雑貨屋で、招き猫を売っていました。

ある時、その招き猫を落として耳が欠けた。

店長に「どうしようか」と相談すると、「これはえんぎもんだから、捨てよう」となりました。店員は、「責任があるから私、売ります」と。すると売れたのです。どうやって売れたと思いますか。

岡／欠けた耳の部分に何かをプラスしたのでは？

森／どうでしょう。

／耳がかけたことが「よいところ」とアピールしたんだと思います。

森／正解です。

POPをつけました。「私は、3月3日に交通事故に遭いました。耳を大げがしました。だいぶ良くなりました。こんな私でも、だれかもらってもらえませんか」と書いたのです。

そうするとある中年の人が「これ、ください」と。店長が「これは、耳が欠けるから新品をお持ちします」というと、中年の人は、「これが欲しいのです」と言ったのです。われわれの仕事でもそうですが、製品が売れないのは、製品が悪いのではない、お客さんに説明が足りないのでは？と思います。「何がいいんだ」という製品のよさをお客さんに説明してないのでは？

この話がすごく教訓になったということです。作業所での役割についてです。作業所で職員に「ここの仕事は、何でしょう？」と聞くと「リハビリです。」とよくいわれます。たしかにリハビリテーションかも知れませんが、サービスなら。

作業所は、物をつくりますが売るのは商売ですから、リハビリテーションの枠を超えていると思います。

我々ものづくりをやっている中で、考え方として、世の中、何が売れるのか、どういう製品が売れるのか。結果的には何を求めているか。それがないと物売る意味がありません。お客様満足です。

作業所はどうか、それが基準です。目的は、障害者理解です。

「かわいそうだけど理解してあげてください」と。それが目的となり、障害者を認めてもらいたい、というのです。ものづくりの発想が根本から違う。だから、売れない。

企業と作業所がどう連携すればいいか。

作業所 でよくあるパターン。

こんな物をつくりましたとユーザーなどに持ってゆくと、「ウチは、そんなもん頼んでない」それは、作業所主導型。企業は作業所を見たことがないし現状を知らない。「いい製品だから3,000個下さい。」というのは、企業主体。これは企業主導型。

それはダメ、共生型でないといけない。

企業も、作業所もいろんなのがある。これらをつなげるためには、企業では、「こういう寄付ができる」作業所は、「ウチは、こういう作業ができる」。そういう企業と作業所の1:1の話です。

それぞれの特徴などをコーディネーターが理解していないとできない。

本来は1:1にはならない。

それでやったのが、ホテルサンルートとの共同開発商品です。

中国新聞に8月6日の原爆の日にあわせて掲載しました。6月から販売をしていたのですが、全然、売れませんでした。8月6日に記事がでると、どうなったと思います？

ホテルの電話は鳴りっぱなし。

「この製品、どこで売ってるの？」という問い合わせばかり。午前中には全部売れました。

ホテルから作業所に注文が行きました。でもすぐ作れる物ではありません。

お盆と重なって、職員も田舎に帰り、出来ない。私の携帯に電話がありました。そのとき、私がいったのは、今すぐいれ売れ行きの「ニンテンドー」のゲームと同じです。そういう物は予約しても買いたい。だから、予約だけ受け付けられればいいとアドバイスしました。

今までの作業所の製品と違う。

作業所が自信を持っていいと思いましたが、それだけ技術レベルが高いのだ、と作業所に言いました。

実際、これが販売の様子です。

サンルートさんは、新聞にも出ました。これは、「禎子」さんです。原爆の子の像。禎子さんの人形は、平和公園に近いので、それにちなんだ製品を・・・ということで考案しました。

こちらは、宮島の鳥居、カーブ坊やと鹿。

広島は全国からいろんなお客が来ます。「広島のみやげがほしい」ということで、こういう物になりました。これなら、お土産コーナーにもおけます。これは、買い取りではないが月30~50個出ます。

サンルートの希望でつくったものだからサンルートオリジナル商品です。

これは、JTサンダースの人形。

経済レポートに出した記事ですが、JTサンダースがやったという書き方が大事。

買い方を注意してみてください。これ以外にホテルセンチュリー、国際ホテルなども結婚式の名札立て。クリップのついた木工製品です。

プリンスホテル、ハード的に車椅子で利用できるホテルです。

広島市も不景気で、ソフト的にも協力をしていこうと薦めました。

逆に閉鎖される物もあります。その備品の処理が問題になります。

閉鎖の情報がくると県とか市、統括団体に情報を流します。知り合いの建設会社の社長を介して、何月何日にトラックを配車する。その社長の紹介で解体業者と知り合いとなり、さっきの備品と同様、解体のとき、いろんないい物ももらってくる。

島根県のフィットネスクラブの話です。そこに不要なロッカーが100台あるという。

どうにかならないか…。作業所の管理団体に連絡しました。西条の「コスモス作業所」にトラックで全部ロッカーを運んでもらいました。

それから希望をとり、配布しました。

山口県のパチンコ店が閉店と聞きました。何があるかわからないがとりあえず行きました。パチンコされる方？玉を入れる箱がありますね。カラフルな箱が1,200個もありました。

これ何に使えるかな？と考えました。金属の玉を入れるの

で頑丈。小物入れになります。スロットのコインの入れ物は、いいことに、洗浄の穴まで開いている。フラワーポットに使えるか?といろいろ考えました。

そういう物を作業所にあげました。作業所でカラフルな箱を見たら、この話を思い出してください。

今までの木工のような話だと作業所は、デザイン力も技術もないので参考にならないといわれます。

今日は、ペットボトルを持ってきました。私の友人が中国電力で働いています。

ボランティアで子どもたちにペットボトルロケットの作り方を教えています。1回500円。その為に彼も仕事の合間、夜な夜なごみ収集場でペットボトルを集めています。それを見て、作業所で何か出来ないかと相談をもちかけ、難しいことはできないけど簡単な事なら出来るかと思いました。

ショックアブソーバーというのは頭とお尻を切るだけ。そして洗って乾かします。彼が現在500円もらっていますが、一部の仕事を作業所が請け負うと、150円出します。今、作業所の工賃は、1円、2円。下手すると何銭という時もあります。150円は、すごい利益。

彼は、これによって夜ごみ収集にいかなくてよくなりました。社員が飲んだペットボトルがある。だんだん面倒くさくなった。ペットボトルは全部作業所に行く。何月何日に何人で飛ばすからと連絡が入る。

そして500円全額頂きました。

ペットボトルは今120円ですかね。

材料費を抜いても手元に300円残ります。ものすごい収益になるのです。

廃棄物を利用するといろんなもとのリスクが減ります。こういう利用は、とてもよいのです。

かまぼこ板も同じ。これを作業所に渡すとフラワーポットに。これはカッターで加工出来ます。

女性に大人気です。全然お金がかかりません。

発泡スチロールの廃棄物。こういう廃品を使っていろんな物ができます。

ペットボトルは、ロケットになど。

あるとき、「マキタ工務店」の専務と話しました。福祉をやりませんか?と聞くと「きびしいね。」と。それで質問を変えました。

「何か困ってることは、ありませんか?」と。すると「ゴミがすごい出る」。

どんなゴミかと見せてもらうと、障子紙とかふすま紙。一番興味をひいたのがふすま紙の見本帳でした。

こちらにふすまのきれいなのがあって、アルバム状になっています。全部のりづけをしていなのでカッターで切ると、いい紙が手にはいる。「すごくいい。何かに使えないか?」と思いました。

なぜ、大量に捨ててあるかと聞くと、デザインの周期が早いのですぐカタログが使えなくなる。買えば高いのに。私が「これを使え」というと製品が偏る。君たちでデザインしてくださいと言いました。

はぐくみの里という作業所はペン立てをつくります。よく作業所のバザーでみる製品です。

あまり売れませんが。千代紙の代わりにこのふすま紙を使うと、山水画。この絵柄だと立派なペン立てになります。君たちでデザインしてくださいと言いました。

たまたま、ハワイの人が見学に来ていて、「ニッポン!ニッポン!」と言ってあっという間に50個出ました。わくわくしました。

ある作業所では、それで箸袋を作りました。

もったいないくらい立派なのが出来ました。

これは日本人が見ると、捨てた物からつくったと想像出来ます。

彼らは、最初バザーで売ろうとしました。私は「やめろ」といいました。

「日本では売るな」と言いました。

広島には、ホームステイの子が良く来ますが、困るのがお土産です。

これは、廃材で安いし、軽い。

私は、まだ実現はしていないが「学校に売りに行け」と提案しました。

学校で大切なことは何かと先生に聞くと、「環境」ですと。ピッタリ!

では、障子紙はどうするかと考えました。工務店の人が文化教室もやっていたました。実は絵の先生です。染色技術を持っておられ、五日市の作業所で、染色の技術も教えてもらっています。

ペン立てにもなるし、いろんな製品に加工出来ます。

失敗してもかまわない。先生が言われていたのは、健常者に教えると、真似をするといえます。

しかし、作業所では真似をしないので、いい物ができるといことです。

次に、福祉施設、小規模作業所等と企業の共存についての研修会のチャンスがありました。

大きく3つに分けました。

- ・お菓子
- ・さおり織り
- ・木工

と、そしてそれぞれの専門家をおきました。

おそらく日本でも初めてだと思います。結果をデジカメに落とし、専門家に検証してもらいました。

そして、仕事をみてもらいました。

一舞台の上のスクリーンをご覧くださいー

専門家から見て作業所の販売はどうなのか。

一部がこの写真。

胡麻せんべいを揚げているところ。

フライパンに材料を入れて揚がったら火箸ですくう。袋に詰める。すると、真っ平らなせんべいになる。どちらがおいしいそうに見えるかを比べました。

お客さんがどっちを買うか。先生が考えるのは、どうしたらお客さんに買ってもらえるか。

作業所との差は、そのあたりだと思います。プロに学ぶということ。

まなび作業では、結婚式のキャンドルづくりの作業所があります。クリスマスキャンドルとか見て、わかりますが、あまりほしくない製品。

「あなたたち、プロの仕事を見たことがある?」と聞くと「ない」との答えがかえってきました。

工場へ実際にプロの仕事を見に行きました。

ろうそくは普通のろうそく。

周りの演出に凝っている。プロのものづくりと考え方が違います。

けむりが・・・、デザインが・・・、といった悩みをきいてもらった。寄付の所望に来たのではなく、ろうそく作りのアドバイスがほしいと言いました。ここ2年フラワーフェスティバルでろうそくを出しています。

「祈りのオブジェ」を10万円で受注しました。これは、去年のフラワーフェスティバルの記事。

竹の中にろうそくを入れ燃やしている。デザインは、一級建築士にもらった。これをフラワーフェスティバルの

3日間燃やせば10万円の仕事。

今年は担当が代わりましたが、5分で交渉成立。かめやまろうそくさんのあまりで防災のろうそくをつくりました。1つ70円で売れました。

シャレオで販売しているはずですが。

—舞台の上のスクリーンをご覧ください—

今日は、呉の方もいらっしやいますね。

呉のたまご作業所がありますが、無認可のとき、自分たちの作業所のホームページをつくりたい。企業に任せば金がかかる。

所長から、相談がきました。呉の社協の広報誌に募集を載せるよう言いました。「作業所ボランティア募集はやめろ」といいました。

「作業所にコンピュータを頂きました。今からホームページをつくりたいが、コンピューターの好きなホームページの出来る人募集」と掲載。

すると主婦、会社員とか申し込みが山ほどきました。みんなコンピュータが好きな人ばかり。あつという間にホームページができました。

それから面白いことが起きたのは、暇になると、回りをみまわす。クッキーを焼いてると、「私も、家でやってる。やらせて」コンピュータ好きな人もそれ以外の作業に興味をもって、ボランティアとして参加された。

所長が言われたのは、「今までの作業所のボランティアの募集はまちがっていた」と。

一般の方が、作業所というと「私は、資格をもっていないから」とか、「障害者を見たことがないから」と。コンピューターが出来ることも、一般の福祉。それを福祉と結び付ける人がいない。それらをコーディネートする人が必要なのです。

コーディネーターがいないため、一般の作業所とのつきあいが出来ない。

まとめに入ります。今まで話したように企業から支援をしてもらいますが、

お返しがない。「企業：福祉」なにかお返しができないかと考えました。

我々企業で新製品が出来たとき、新聞社は来ないが、新しい作業所ができたというマスコミに興味を持ちます。それを生かせばいい。報道によって、テレビを見た人が「作業所」に興味を持つ。負担もない。結果的には、それが宣伝になります。

J Tサンダース人形とかがいい例。

お返しがなくても、報道することによってお返しが発生する。

—舞台の上のスクリーンをご覧ください—

そうすると企業も、もうちょっとやってみようという回り始めます。

面白い事例は、J Tサンダース人形の話。ユニフォームが変わったので新しい人形をつくってくださいと企業から頭を下げてきました。

企業が頭を下げるなんてことは、今まではない。散々甘い汁をすってますからね。

そういう関係から循環する形になりました。

作業所に協力している企業も取材してもらいなさいという提案をする。マスコミで取り上げるとき、企業とか人を取り上げてもらう。

この、回転をさせるために企業を露出させなさい。誰が映っていたというレベルの話ではない。そうすることにより、企業がまた助ける。

個人が映るより企業宣伝を利用するほうが作業所の利益

につながる。

環境教育、かまぼこ板などが材料になり、ゴミが減る。

ペットボトルの話のように教育が絡んでくる。

作業所からすると収益。企業からでた廃棄物が環境問題に貢献している。

一番重要なのは、作業所が教育に貢献している。作業所が教育のお手伝いをしている。

子ども達も障害者に興味を持つ。

具体的には、イベントなどで作業所製品を使うと、イメージアップにもなる。

今までお金の寄付しか気づかなかった企業ですが、寄付以外の社会貢献があります。

企業が技術的な支援で作業所をバックアップしたらどうか。それには何が必要か？コーディネーターです。企業、作業所と両方をよく理解している人が必要。

そのそれぞれを勉強したコーディネーターが必要になるのではないのでしょうか。

最初の問題点をそのまま持ってきました。

資金不足の解消として、それには廃棄物を使えば、お金はいらない。何が幾つ、いつまで、受注生産をすれば、収益が安定する。

というオーダーメイドができる。無駄がなくなる。

アイデアや技術不足解消には、お金だけではなく、企業にも利益になる関係を築けば、技術、物の支援なら出来る企業はある。

お金の寄付だけでなく、そういう方向でも作業所は考えるべきです。

最大のネットワーク不足解消には、さっきのマスコミを利用した企業の連携。メリットをもたせる報道をすることで企業にもメリット感がある。

広島大学が、平成14年地域貢献研究課題をはじめました。ちまたで困っている事例を大学で研究することで、私も後期で採用されました。

広大、医学部、などと共同研究で論文を発表しました。

これは福祉の話でしたが、17年度県立広島大でも合格して、論文を発表しました。

これは経営情報学部の先生と経営戦略の専門家です。

これは、福祉ではなく経営。

こちらを私はやりたかったのです。

もっと経営的な面で、企業も、作業所も助かるというのが目的でした。

広島県庁も広大の研究ということもあり、非常に積極的に教育してもらい、県庁内で、府中町の作業所の製品、1,000円近いケーキですが、1時間で54個完売しました。

県庁史上初めてのことで、これは、すごい！

紹介する先は、どこでもいいというわけではなく、根拠が必ずあります。

1時間で54個売れる自信があるの？

福祉だとか、可哀想、というのではなく、製品に対して自信がないと、価値がない。

作業所では、しおりを作っていなかったが、図書館からの要望を尋ねる。そういう物をつくれれば600枚売れます。今までは、作業所が作って、買ってくださいと言っていたが、これからは、お客さんの要望を聞いてつくることで、受注生産ができるのです。

部長からの信頼を得たので、県庁の中で発足するというので人選を任せられました。

障害者の経済自立支援で、新しい部を開設することになりました。その人選も任せられました。

これは県庁内部で論議があったようですが、広島市を入れるのは初めてのようです。

市の障害福祉課長もきていただき、広島市役所も秋葉さんに直訴状をだして、こういう回答を頂きました。

現場の人たちだけが一生懸命やっていたのではダメ。それで、福祉を語る会ができました。人数的には福祉の異業種交流会。役職などの条件は、ない。福祉に興味のある人たちです。

メーリングリストでは、今は300名います。講演、交流会を含めた会を開催すると、こういうところに誰が来るか。ありとあらゆる人、市、県関係なく。えらい人も偉くない人も関係ない。席はくじ引きで決めます。

誰でも話ができる会です。プロレスラーとかいろんな職種の人が集まりで訳の分らない会になっていますが…。県の偉い方が末席のこともあります。

今までも福祉の会は、あったと思います。専門家ばかりが集まった会は、あまり発展性はありません。関係のない人を取り込むことで、それによって福祉がよくなる。もっと福祉を知らない人、関係ない人をまきこんで膨らませて行きたい。

社協の仕事を民間でやるのはおかしい。将来的には、社協で考えてほしい。

今このビデオは県庁から無料レンタルできます。ぜひ、見てください。

今技術支援モデル事業をしています。何かというと、行政は補助金を中心でした。作業所の人数にあわせて補助金を計算していました。

自立支援法ができて難しくなってきました。ほんとに現場で困っています。

物をつくる技術とか、販路など、どういう物が売れるか、そのへんバックアップを行政がすべきではないか、ということで、去年の4月に予算が取れました。

これは、作業所に経営力がなく、困っている。中小企業診断士を派遣しましょう。

物づくりで困っているところには、プロを派遣するのを県から出す。そういう事業をはじめました。

全国で、3・4箇所しかやってない。これは、今やっていることですが、広告で見たことがありますね。ダイエットクッキーです。

楽天。これ、高いんです。オオツカせんべいで作っています。

いませんべいの時代でないのであまり売れません。「どうすればいいですか?」と相談をうけたので、お菓子の専門家の先生に協力していただきました。

今ダイエットクッキーが流行っている。調べると材料がおからです。いいことが2つあります。1つは、栄養価が高い。もう1つは産業廃棄物。材料費が安いのは、こういうものを使えば、材料費がかからない。では、ダイエットせんべいは出来ないかということ、これはまだだれもやっていない。成功するかもしれません。今、製品開発をやっています。

かなり売れるよ!と目測を立てています。カルビーなど大手の企業がなぜおからを使わないかという、おからは保存性が悪くさりやすい。大手の企業が使いにくい。

こういうものこそ、地域の作業所の利点です。

いろいろな話をしましたが、何が言いたいか。誰も損をしない。得をするプラン。

一方的でなく、みんなが得をして、お互い様。「お互い様」をキーワードにして「やってあげる」ではなく「お互い様」の関係になると、本当の意味での「バリア

フリー」になるのかな?

平等になるのかな?

お互い様の心がないと、悪く言う。「見下している」ということになる。

これからもボランティアは大事。

皆さんも体に気をつけ、活動を続けてください。

ありがとうございました。

—拍手—

司会/森さん、すばらしいご講演をありがとうございました。写真や動画を交えた話でよくお分かりになったと思います。

森さんがおっしゃられたとおり、作業所側は、企業の営業戦略を学び、一方的に企業の支援を求めるのではなく、企業と「持ちつ持たれつ」の関係、「共存共栄」の関係を築き、今後、マスコミを媒体として、企業と福祉団体をコーディネートするという手法を用いた

「誰も損をしない福祉の構造」がますます注目され、必要になっていくに違いありませんね。

時間も少しありますので質問を受けたいと思います。

司会/質問のある方は挙手をお願いします。

会場/福山市難聴者協会の宮川です。

森さんがなぜここまで、福祉に関心をもつようになったのか?そのきっかけは何だったのか、それを知りたいです。

森/ありがとうございます。

最初に話しましたが、これをライフワークとしていますが、やはり、「好き」なんだと思います。いまいろんなところでいろんなコーディネートをしています。作業所に喜んでもらえるというのが人のためになっているのかどうか、自分の励みになってだんだん深みにはまって、足が抜けなくなった、ということではないでしょうか。

みなさんもこういう活動をされているのは、耳の不自由な人に喜んでもらえるということが、福祉にのめりこむ原因だと思えます。

司会/その他ありませんか?せっかくの機会ですから。

会場/福山要約筆記「さんりん車」です。

ボランティア、コーディネーターは、通称ですか?

そういう資格というものがあるのですか?

森/資格はありません。

「なんて紹介したらいいですか?」と聞かれるので、仕方なくコーディネーターと言っています。

企業の人なら企業のことを知っているのは当然なんです。作業所と企業の間を話するとき、例えば、作業所の人企業が企業を見学に行く、「すごい」と思うことはあっても吸収する力がない。逆に企業の人作業所に行くと、企業側からするとアイデアは、ある。

企業に福祉を勉強してもらうことは、それほど難しいことではない。

確率が高くて短期間に出来ることだと思います。

企業の人に福祉のことを知ってもらうのが、コーディネートはしやすい。

福祉の方に企業を勉強してもらうのはたいへんです。

実際、ボランティアされている人の中には、

企業に勤めている人もある。

今のような形で、転用されるといいと思います。

自分のやってきたこと以外をやるのではなく、それを福祉

に結びつける。
コーディネーターなんて簡単になれますよ。
今、皆さん、コーディネーターになる
資格は、みなさん十分にあります。
司会／ありがとうございました。

以上で、森浩昭さんの講演を終わらせて頂きます。
ありがとうございました。

第1分科会

演題：日本語の特徴
講師：広島国際大学国際交流センター 杉本 巧さん

司会／それでは時間になりましたので分科会を始めます。
講師は、広島国際大学交流センター杉本巧先生です。
杉本先生は、東広島市要約筆記の養成講座で毎年、話をし
てもらっています。
皆さん、見られてのとおり、イケメンで…。今日は、日本
語の特徴についてお話いただきます。
杉本／よろしくお願ひします。なんだかそんな紹介のされ
方をすると、話しにくいです。
私は、広島国際大学で日本語教育を教えています。外国の
人を相手に日本語を教えています。要約筆記をされている
皆さんへ日本語の特徴についてお話しします。

日本語の特徴

■ 日本語の特徴

- 文字・表記
- 文法
- 要約筆記のために
- 話しことばと書きことば
- 要約について

要約筆記する上で注意する点です。(文法)
大学生のノートのとり方を応用して話します。話し言葉と
書き言葉の違いに
ついて話します。まず、日本語は、外国語と比べて、どうい
う性質があるか？
日本語には、言語の数が3000～8000あります。一般的に
他の言語は5000です。

世界の中の日本語

■ 膠着語

- 食べさせられていたのですね。
 - 食べる(動詞)
 - +させる+られる+ている+た+の+です+
ね
- ・ 膠着語(こうちゃくご)の膠という字には、「にかわ」
という意味があります。

■ SOV型言語。

- 日本語：何が+何を+どうする
 - ・ 太郎が花子を叩いた。
- 英語：何が+どうする+何を
 - ・ Taro beats Hanako.

日本語と英語では、「花子」と「たたく」の順番が違っ
ている。

- ある語を修飾する要素は、その語の前にくる。
 - 太郎が飼っていた犬が連れて来たネコが食べた魚は、
腐っていた。

韓国語とかトルコ語が同じパターン。文の中にある言葉を
修飾する。
この文を分析すると「太郎から魚まで」が修飾されている。
文として意味は通じる。日本語は、あとにくることばを修
飾する。

資料を見てください。

これは、日本語で書かれた手紙です。今の文章をかなり違
うと思います。すべて漢字で書かれています。8世紀頃で
す。何が書かれているか分かりますか。
借金の催促状です。発音すると『はやくまかりたまふべし
(早くきてください)』という意味です。
今の漢字の使い方と違って。漢字には、一文字ずつに
意味があるが、意味は無視して音だけで言った時代もあ
った。資料が残っている。2000～3000年前の日本語は、文字
のなかった時代。

■ 日本語の来歴日本列島固有の言語がなかった。

□ 漢語・外来語など他言語の影響がある。

漢字を輸入していた。音だけで文章を書いていた。他の言
語の影響も多い。

ヨーロッパから入ってきた言葉も日本語として使われて
いる。

例：かぼちゃ・カステラ・天ぷら・ラッパ・タンポポ・カ
ルタ

1つだけ、外来語でないものがあります。日本語として作
られた言葉です。

どれだか、わかりますか？

かぼちゃ？ かるた？ わかりにくいですね。

正解は、「タンポポ」です。

かぼちゃ・らっぱ…ポルトガルからの外来語です。

かぼちゃ=カンボジアの野菜という意味です。

■ 日本語の現在

□ カタカナ語・省略語・流行語・位相語など、常に増加
している。

□ デゴテン、マクる、ホワイトキック

外国語の影響を受けた言葉は、多い。カタカナ語で、「ナイ
ター」は、日本で作られた言葉もあります。

省略語：パソコンなど。

流行語：若い人が使う言葉のこと。

いそ語：方言 ある特定の人が使う言葉。

そのほか、従来の日本語になかった言葉も増えている。

大学生が使う言葉として「デコデン」「ホワイトキック」
などがあります。

意味がわかる方？

「マクる」→関西では、「マクドる」 → ハンバーガー
を食べる

「デコデン」→デコレーション電話 飾ってある携帯電話
のことです。

「ホワイトキック」→ シラける 白：ホワイト ける：
キック

人前で講演するような人は、使わないが、こういう言葉も
あるということです。

文字の機能についてです。日本語の特徴として外国人に評
判が悪いのは、文字が多いこと。

文字の機能

■ 同音異義語

□ 「カンショウ」